

第4回 日本障がい者スポーツ健康科学看護学会学術集会

シンポジウム『一緒に考えるパラスポーツの明日』

～チームドクターの立場から～

視覚障がい者柔道 チームドクター 尾崎大也

要旨

私がパラスポーツに関わるようになったのは弟の身体が不自由であった事と、学生時代から私自身スポーツをしていた事から、障がいを持ったスポーツ選手のサポートがしたいと思った事がきっかけでした。2010年に中国・広州でアジアパラが開催され、日本選手団の医療班として、田村理事長と共に参加しました。視覚障がい者柔道選手を多数治療した事から、同連盟との繋がりができ、2012年のロンドンパラリンピックからチームドクターとして関わる事となりました。チームドクターとしての役割は、毎年行われるメディカルチェック、国内大会救護、海外遠征の帯同、トレーナーと連携して選手の体調管理を行うことです。パラリンピックの戦績は、ロンドン：金メダル1個（正木健人選手 100kg 超級）、リオ：銀メダル1個、銅メダル3個、東京：銅メダル2個でした。今までは、体重別の男女各7階級で試合が行われ、視力や視野により B1（全盲）から B3（弱視）の3クラスがあるものと一緒に試合を行っておりました。B1が圧倒的に不利だった事から、エビデンスに基づいたクラス分け（J1,2の2クラス、体重別の各4階級）へ今年から変更となりました。B3の最高矯正視力が0.1だったのが、J2のそれが0.05となった事により、2-3割の選手が出場できなくなり、大混乱を来しております。サポートチームには、新たに眼科医と心理療法士、栄養士が加わりました。私は整形外科医であり、主に運動器のサポートを行ってきましたが、眼科医が加わったため、残存機能を最大限生かすようなロービジョンケアも含めたサポートにより、選手のパフォーマンスを上げていけないと感じています。また、パラスポーツのメディカルサポートは、チーム医療であり、これからは整形外科（ブラインドスポーツでは眼科）やコロナ禍では感染症の知識を持った看護師さん（スポーツナース）の参加が期待されております。

2022年6月24日 Web開催